

リニアは夢の乗り物か？

# ストップリニアニュース No.16

発行：リニア新幹線を考える相模原連絡会 2014.02.01

## リニア中央新幹線公聴会傍聴記

年明け早々の1月13日、神奈川県主催のリニア新幹線に関する公聴会がサンエール相模原で行われました。当日は15人の公述人が、鳥屋に予定されている車両基地の問題や、橋本駅付近の地下中間駅などの地域の当事者として切実な心情のこもった陳述をしました。これらの意見はいずれもJR東海の「環境影響評価準備書」は水源地、地下水脈、飲料水、活断層、電磁波の影響、発生土の処理、動植物等の生態系や自然環境への影響について検証が不十分であるにもかかわらず「影響は小さい」と決めつけている甘さを指摘し、リニア新幹線の環境影響評価は不十分との意見でした。

全員がJR東海社長が「リニアは赤字」と断言しているリニア新幹線の建設によるしわ寄せを県民が受けることの無いように、県知事は安易にリニア建設を支持することなく住民の声を反映した意見書をJR東海に提出するよう求めています。

主催者としては県環境農政局環境計画課長と担当事務職員2名の参加のみで県の環境影響評価審査委員は一人も同席していないのには驚きました。



今回の公聴会は住民の意見を知事意見に反映させる重要な機会であるにもかかわらず、あらかじめ県の許可を得ただけが7分間の時間制限の中で話をするだけと、リニア新幹線問題についての県や市の住民軽視の姿勢には腹が立ちます。

相模原市は川崎市のように直接市民の意見を聞く機会をもうけるべきです。  
(記S・F)



## 都市の地下水環境問題をどう考えるか

—リニアの長大なトンネルで地下水はどうなる—  
お話しと意見交換 **守田 優さん**

芝浦工業大学工学部土木工学科教授

2014年**3月9日**(日)午後**2時**より

橋本駅北口ソレイユさがみセミナールーム1にて

JR横浜線、京王線橋本駅北口スーパーイオン 6F

(事前申し込み不要、資料代として300円いただきます。)



# リニア中央新幹線の環境影響評価準備書の内容に 各地で批判、意見が相次ぐ。

## 長野県南木曾町 長野県で初のリニア新幹線への“拒否”意見

信濃毎日新聞（1月11日）によると、木曾郡南木曾町は10日、環境影響評価準備書に対する意見書を県に提出した。

JR東海が町内2カ所に設けるとした作業用トンネルの坑口（出入り口）について、地域生活が掘削残土搬出車両の通行で大きな影響を受けるとして「受け入れられない」と明記。2カ所ある坑口を1カ所にし、1日最大690台とした町内の車両通行台数も減らすべきだとして、知事意見でJR東海に計画修正を迫るよう求めた。

意見書では、地域の理解が得られない場合は事業を一時休止することなどを盛り込んだ協定を、県が市町村を代表してJR東海と結ぶことも求めた。



古い家並みが並ぶ 南木曾町 妻籠宿

## 「大井川の水量減困る」 静岡県 大井川流域9市町が要望

静岡新聞（1月7日）によると、静岡市葵区の南アルプス地域を通過するリニア中央新幹線について、「開通で大井川の水量が減るのは困る」と流域7市2町の首長らが7日、県と静岡市に対応を要望した。

JR東海側は環境影響評価準備書の中で、開通後には大井川上流の流量が毎秒2トン減少すると予測。これは、流域約63万人が利用する大井川広域水道企業団の水利権と同量という。

掛川市の松井三郎市長は「掛川市は生活・農業・工業用水のすべてを大井川に頼っており、JR東海には減る2トン分を大井川に流すような工事をしてもらわなければ困る」と発言。牧之原市の西原茂樹市長も「下流はすべて大井川に頼っている。流量減について全く知らされないまま、2年前ずさんにルート決定された」と疑念を述べた。



## リニア山梨実験線では水涸れや異常出水が



無生野地区の沢 櫻田秀樹 撮影

昨年延伸工事が完成した実験線の周辺では“水枯れ”という深刻な環境問題が発生している。

初めて報告されたのは、99年の大月市猿橋町朝日小沢地区。住民の簡易水道の水源である沢が枯れた。実験線の延伸工事が08年に始まると、翌年、笛吹市御坂町の水源である一級河川の天川が、さらに11年夏には上野原市秋山の棚の入沢が枯れた。この無生野地区の棚の入沢には、11年まで尺（約30cm）サイズのイワナとヤマメが泳いでいたというが、今は乾いた川底の砂を晒している。